幼児の動物飼育体験が思いやりの形成に及ぼす影響

—共感性・向社会的判断の分析を中心として—
○安藤ときわ・浜崎隆司
(鳴門教育大学大学院学校教育研究科)
キーワード: 幼児, 動物飼育, 思いやり

The effect of animal breeding experience on formation of sympathy in preschool children
Tokiwa ANDO and Takashi HAMAZAKI
(Graduate School of Teacher Education, Naruto University of Education)
Key words: preschool children, animal breeding, sympathy

目 的

井戸・桜井・柿沼・高橋(2002)は、動物飼育を通したコミュニケーションから、動物の立場を理解し、異質な立場の存在や命の尊さを学び、相手への思いやりを培うことにつながっていると示唆している。このように、子どもが動物飼育を行うことが思いやりの形成に影響を及ぼしていると考えられるが、動物への関わり方やその内容が子どもの思いやりの形成にどのように影響しているかについての詳細な検討はなされていない。本研究では、動物飼育を行っている園と行っていない園の園児の比較、動物飼育を行っている家庭での動物への関わりの程度を比較し、子どもの思いやりの形成に及ぼす影響を検討していく。

方 法

調査対象者・時期: 徳島県内の幼稚園や保育所の 5 歳児 159 名とその保護者を対象とし、2009 年 7 月～10 月に行った。
調査手続き・内容: 誘導係 1 名が被験児 3 名を園(所)の一室に誘導し、調査者 3 名が個別に調査を行った。
1) 共感性テスト: 被向社会的行動者(3 場面)や動物(3 場面)の感情を正しく理解しているか否か(認知的共感性)を測定するテストと被向社会的行動者(3 場面)や動物(3 場面)の感情に対する被験児の代理的感情反応(情動的共感性)を測定するテストから構成されており、表情カードを用いて選択させる。
2) 向社会的判断を測定する尺度: 図版の提示と場面選択による幼児の向社会的判断に関する尺度を作成した。図版は先行場面と向社会的行動、非向社会的行動の 3 枚からなり、様々な状況下での人や動物に対してどちらの対応を選択するかという図版 6 場面から構成されている。
3) 動物への愛着測定: 被験児に「○○くん(ちゃん)は動物が好きですか」と聞き、回答を求める。
また調査後、幼児に家庭での動物飼育アンケートを保護者に記入してもらうように配付した。アンケートの内容は動物飼育の有無、子どもと動物の関わり方や頻度など。

結果と考察

Table1, 2 は、園飼育と家飼育における情動的共感性得点の平均値および家飼育における認知的共感性、情動的共感性、向社会的判断得点の平均値、さらに幼児の思いやりの形成との関連を検討するために行った分散分析の結果を示したものである。園飼育が幼児の思いやりにおける情動的共感性に影

響を及ぼしており、園飼育を行っている男児は園飼育を行っていない男児より情動的共感性が高く、園飼育を行っている男児は女児より情動的共感性が高い傾向にあった。家での動物の世話を毎日あるいは時々する幼児は、しない幼児より向社会的判断が高かった。そして、家で動物を自主的に世話している幼児は、言われてもしない幼児より認知的共感性、向社会的判断が高く、動物の世話をするように言われてする幼児は、言われてもしない幼児より向社会的判断が高い傾向にあった。また、家で動物を飼いたいと言った幼児は、保護者が動物を飼いたいと言った幼児より認知的共感性が高く、家で動物を飼うことについて話し合う場面に同席している幼児は、話し合いの場面にいない幼児より情動的共感性が高かった。最後に、動物が好きな幼児は、動物が嫌いな幼児より認知的共感性、向社会的判断が高く、情動的共感性が高い傾向にあった。これらの結果より、園飼育では幼児を動物飼育に積極的に関わらせることにより、相手を感じている気持ちを共有する(情動的共感性)ことができるようになると考えられる。また、家飼育では動物との関わりが多いほど、思いやりの形成に影響を及ぼすことが推察される。

Table2 家飼育での認知的共感性、情動的共感性、向社会的判断得点の平均値 ()内は標準偏差				
世話頻度	毎日(n=9)	時々(n=35)	しない(n=6)	F値
向社会的判断	5.78 (0.42)	5.63 (1.07)	4.33 (2.43)	2.88 * 毎日>しない、時々>しない
自主的世話	する(n=22)	言われてする(n=20)	しない(n=6)	F値
認知的共感性	4.26 (1.39)	3.55 (1.43)	2.83 (1.68)	2.64 * する>しない
向社会的判断	5.78 (0.41)	5.50 (1.33)	4.33 (2.43)	3.02 * する>しない、言われてする>しない
飼育態度	子ども(n=19)	保護者(n=15)	その他(n=16)	F値
認知的共感性	4.26 (1.37)	3.13 (1.54)	3.94 (1.44)	2.48 * 子ども>保護者
飼育の話し合い	子どもを含める(n=27)	その他(n=21)		F値
情動的共感性	2.63 (2.08)	1.10 (1.48)		7.89 ** 子どもを含める>その他
動物の好き嫌い	好き(n=9)	嫌い(n=21)		F値
認知的共感性	4.04 (1.30)	3.29 (1.42)		5.50 * 好き>嫌い
情動的共感性	2.43 (2.12)	1.57 (1.68)		2.94 * 好き>嫌い
向社会的判断	5.71 (0.88)	5.14 (1.48)		5.23 * 好き>嫌い

**p<.01,*p<.05,p<.10

<引用文献>井戸ゆかり・桜井富士朗・柿沼美紀・高橋桃子 (2002). 保育現場における動物飼育(第 2 報)―動物飼育を通したコミュニケーション― 日本保育学会第 55 回大会研究論文集, 770.

Table1 園飼育・家飼育での情動的共感性得点の平均値 ()内は標準偏差									
園飼育あり				園飼育なし					
家飼育あり (n=28)		家飼育なし (n=27)		家飼育あり (n=22)		家飼育なし (n=35)		F値	
								園飼育	家飼育
2.68		3.07		1.32		1.74		12.19 ***	1.13 n.s.
(2.05)		(2.21)		(1.77)		(1.84)		有>無	交互作用
									0.00 n.s.
男児 (n=12)	女児 (n=16)	男児 (n=14)	女児 (n=13)	男児 (n=10)	女児 (n=12)	男児 (n=23)	女児 (n=12)	性差	
3.33	1.94	3.43	2.69	1.10	1.75	1.52	1.42	13.45 ***	0.38 n.s.
(2.06)	(1.92)	(2.06)	(2.16)	(1.81)	(2.01)	(1.56)	(1.71)	有>無	1.08 n.s.
								3.07 +	
								園飼育あり男児>園飼育なし男児	
								園飼育あり男児>園飼育あり女児	
***p<.001, +p<.10									